

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 山北 輝裕

研究課題		日本と海外のハウジング・ファーストの比較研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	長期のホームレス状態の人々を支援するハウジング・ファースト（HF）はアメリカで誕生し、現在は世界各地を席卷している。HF の画期的なところは、シェルターなどの「中間施設」を経ずに、文字通り直接アパートに入居することを実現させた点である。従来のホームレス支援プログラムは「トリートメントアプローチ」と呼ばれ、いわゆる階段モデル(staircase model)を前提とし、施設からの退所の多さが指摘されてきた。それに対して HF によるアプローチの驚くべき点は、路上からアパートに住居を移行した人々が、アパートを出ることなく、そのまま居住する「定着率」である。本研究は日本での HF の完全な実現に向けて、世界の HF による支援がどのように実施されているのかを明らかにすることを目的とする。
	研究の結果	欧米のハウジング・ファースト（HF）の実践と日本の HF を比較検討するために、ハウジング・ファーストに対する批判と反・批判を検討した。なかでも新自由主義と HF の親和性について批判的に検討し、その両者の共振をいかにしてのりこえることができるのか模索した。その成果は『理論と動態』（査読つき）に掲載された。また、日本の HF の実践および、アパートに移行した当事者に聞き取りを行い、その一部をまとめ関西社会学会で報告した。なかでも、支援者がいかにして HF のフィデリティである無条件性を維持しているのかを考察しつつ、アパートに移行した当事者が HF をどのように捉えているのか、についても同時に明らかになった。
	研究の考察・反省	HF は野宿者に変容をせまらぬ無条件性や、当事者を中心にしたリカバリーを標榜しているため、従来の政策と比較しても非常に革新的である。にもかかわらず、HF はさまざまな批判を受けている。その背景には HF とネオリベラリズムの親和性がしばしば指摘されている。本研究はこの両者の共振をめぐる批判をイデオロギー・統治性・政策の側面から再検討した。両者の共振点はホームレスゼロ・自己責任・コストカットであることが明らかとなった。そのうえで本研究は、HF が内包していた革新的な論理にもとづき、その共振を回避し、社会運動として展開する可能性を、日本の野宿者運動の文脈に位置づけることで模索した。社会運動としての HF の方向性の要諦は、＜循環＞・＜対話＞・＜普遍化＞の3点であることを指摘した。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	関西社会学会 「ハウジング・ファースト型支援の社会的・質的調査」 2019年 6月 2日	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	「ハウジング・ファーストと新自由主義の共振をめぐる再検討」 『理論と動態』12 2019年 11月 8日 社会理論・動態研究所	